令和７年度(前期日程)

入学者選抜小論文試験問題

熊本

007

小　　論　　文

試　験　時　間　　90分

文　学　部

注　意　事　項

1. 試験開始の合図があるまで，この冊子を開いてはいけません。
2. この冊子の問題は，２ページからなっています。試験開始後，この冊子又は解答紙に落丁・乱丁及び印刷の不鮮明な箇所などがあれば，手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 下書き用紙１枚，解答紙１枚があります。**解答紙には受験番号を必ず記入しなさい。**
   なお，解答紙には，氏名や題名などは記入してはいけません。
4. **解答は，必ず解答紙の指定された場所に記入しなさい。**
5. この冊子の白紙と余白部分は，適宜下書きに使用してもかまいません。
6. 試験終了後，解答紙は持ち帰ってはいけません。
7. 試験終了後，この冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

※この冊子の中に解答紙及び下書き用紙が挟み込んであります。

次の課題文を読んで設問に答えなさい。

図書館での本の選択について考えてみたいと思います。本の選択は、図書館の数ある役割のなかでも、もっとも大事なものです。蔵書は、図書館の存在意義を左右するからです。

高度経済成長の一時期、公立図書館の資料費予算が大幅に増大していたころ、全出版物の何パーセントを購入できるかで、図書館が資料の豊かさを競うという風潮があり、驚いたことがあります。出版社の出すものを片っ端から購入することが図書館の自慢になるなどということはおかしなことだと思います。予算が削減される一方の現在では、そういうことは話題にならなくなりましたが、たとえ予算が潤沢にあったとしても、図書館から本を選ぶという仕事をなくすことなど考えられません。

出版点数が非常に多い。図書館の収蔵能力に限界がある。かつ予算も限られている。——現在のこういう状況のなかでは、図書館は必要に迫られて本を選ばざるを得ません。でも、それだけが、図書館が本を選ぶ理由でしょうか。そうではないと思います。それなら、お金と場所が十分あれば、本を選ばなくてもよいということになってしまいます。

図書館の蔵書は、図書館の存在理由を示すものです。そこに置かれている本がどんなものかによって、図書館の果たす役割が決まってきます。蔵書が、その時々の話題の本と、軽い読み物中心に構成されていれば、娯楽を提供するのが、図書館の主な目的になるでしょう。反対に、それぞれの分野の基本的な参考書が揃(そろ)っており、さらに新しい考えの刺激になる研究書、一般書が加わっていれば、何かを真剣に求めている人たちに応えることができるでしょう。図書館が、社会のなかで、どのような役割を果たしていきたいのか、あるいは果たすべきなのか、その目的・理念を形に表すものが、その図書館の蔵書構成なのです。とすれば、選択の任にあたる図書館員がどんなに大きな責任を負っているかおわかりでしょう。

図書館における図書選択の基本は、読者（住民）の要求に応えることです。ただ忘れてならないのは、顕在的な要求だけでなく、潜在的な要求をも見極めることです。少し古いものですが、アメリカの公立図書館が発達のピークに達した一九三〇年代から六〇年代にかけて、アメリカの図書館学校で図書選択の基本的教科書として広く読まれていたヘレン・ヘインズの『本とともに生きる』には、読者の要求には、読むのに努力を要しない軽いものを求める多数の大衆からの要求と、本のなかに、こころを養い、精神にインスピレーションを与えるものを求めている少数派の個人からの要求があり、そのどちらにも応えなければならないと述べられています。

問題は、多数派からの要求は声が大きく、無視できないことです。また、表面に出てくる要求には注意が集まりやすいけれど、かくれた要求に気がつく人は少ないことです。読むのは決まって軽いミステリーという人でも、こころの底で何か満たされないものを感じていたり、当の本人も気づかぬままに何かを求めていたりする場合があり、それがふとしたことで出会った本——自分がふだん読んでいる本とは違う種類の本——によって、思いがけず新しい世界が開けるということがないわけではありません。

わたしが最初に勤めた図書館の館長エドウィン・キャスタニヤ氏は、常々こういっていました。図書館員のなかには、世の中には、本にはまったく無縁の人がいるものだ、と考える人がいる。人口の何パーセントかは、図書館がどんなに努力しても、けっして利用者にはならないだろう、というのだ。しかし、自分はそう決めつけてしまうことはできない、と思う。どんな人にも、深くさぐっていけば、かならず好奇心や向上心、まだ火をつけられていない学習意欲があり、どんな人でも何かを学んだり、達成したりしたときには、喜びを感じるものだ、と。

そのときどきの話題の本を、図書館がまったく扱わないということはできないでしょうが、図書館の本の選択が流行だけに左右されるとしたら、それは賢明なこととはいえません。リクエストがあるからといって、複本（同じ本）を多数購入したのはいいが、短期間でブームは去り、顧みられなくなった本が書庫に並ぶ、という状況は、わたし自身も一度ならず目撃しています。もし、そのために、本来図書館で備えておくべき本が買えなかったとしたら、それは予算――税金の使い方という面からいっても、許されないことではないでしょうか。

図書館の蔵書は、書店の品揃えとは違います。読者の要求に応える本を備えて提供するという点では同じですが、書店が対象にするのは、現時点の読者の要求です。今出版されている本、今読者が読みたがっている本が中心になります。図書館が対象にするのは、もっと長い時間を見通した、潜在する要求をも含めた幅広い読者の要求です。

図書館には、過去の読者が大きな恩恵を受けてきた本、わたしたちの知識が今日の水準にまで発展してくるのに大きな役割を果たした本が保存されているべきですし、これから先、三十年、五十年経って現れるかもしれない読者のために、その時点でも価値を失わないであろう本を備えるべきだからです。すなわち、図書館には、書店と違って、時代、時代が生み出したもっともすぐれた本が失われてしまわないように保存して、次の世代へ伝えていく役割があり、現在だけでなく、将来を見据えた本の選択をする責任があるのです。

美術館が美しさの水準を示す役割を担っているように、図書館はわたしたちの社会がもっている知とたのしみの水準を表す場所でなければならないのです。

（松岡享子　『子どもと本』による。原文を改めた箇所がある。）

設問

課題文の傍線部の内容を説明し、未来の理想の図書館について、選書の方法、蔵書が備えるべき特徴などを明らかにしつつ、あなたの考えを一〇〇〇字以内で述べなさい。